

様式第 3 号

会 議 録

会 議 名 (付属機関等名)		令和 7 年度第 1 回中小企業振興条例制定部会	
事 務 局 (担 当 課)		市民環境部 産業振興課	
開 催 日 時		令和 7 年 5 月 2 1 日 (水) 1 0 時 ~ 1 1 時 4 5 分	
開 催 場 所		Web 会議システム形式と対面形式の併用 (場所：川西市役所 7 階 大会議室北)	
出席者	部 会 員	野原部会長、山下部会員、柳部会員、仁岡部会員、西田部会員、小堂部会員、稲継部会員、時任部会員 (0L)	
	オブザーバー	タウンマネージャー：九鬼氏、商工会：藤森氏	
	事務局	越田市長 市民環境部 岡本部長、人見副部長 産業振興課 河合課長、上原課長補佐、高橋主査、松岡主事	
傍聴の可否予定		☒ 可 ・ 不可 ・ 一部不可	傍聴者数 0 人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会 議 次 第		1. 開会 2. 委嘱状交付 部会長へ交付 (他の部会員は机上に配布) 3. 市長挨拶 市長挨拶後に各部会員、オブザーバー、事務局の自己紹介 4. 議題 (1) 川西市の現状 (産業ビジョン等) について (2) 条例制定に向けて実施したアンケート結果について (3) 兵庫県及び他市の事例について (4) 中小企業振興条例の方針 (必要性) について (5) 今後の本部会で取り組む予定内容及びスケジュールについて 5. 閉会	
会 議 結 果		別紙 審議経過のとおり	

審 議 経 過

事務局	1 開会 定刻になりましたので、ただ今より、川西市振興条例制定部会を開催いたします。 私は産業振興課長補佐の上原と申します。 今年度はWeb会議システム形式と対面形式の併用での開催とさせていただきます。Web会議システム形式でのご参加の方は、ご発言の際はミュートを解除していただきますようお願いいたします。 ＜オンライン会議の有効性の確認＞ では、開催に先立って、オンライン会議システムでの参加及び通信の確認を行います。 オンライン形式で参加いただく部会員は、会議開始前に「映像及び音声により部会員本人であること」、「会長及び部会員相互間での映像及び音声の即時の相送受信が適正に行われていること」の2点について、確認を取っております。 次に本会は、部会長と部会員8名のご出席をいただき、当会の規則第7条第2項の規定による、定数を満たしておりますことをご報告いたします。 また、参画と協働のまちづくり推進条例に基づき、2点お伝えいたします。 本日の会議は、こちらの市役所会議室にプロジェクターを設置し、会議内容が傍聴できる体制とし、公開のもと行って参ります。 なお、会議録の作成のため、当会議を録画・録音いたします。 会議録の作成後には速やかに削除いたしますのでご了承をお願いします。 それでは、事前にメール送信と郵送させていただいた資料のご確認をお願いいたします。 ＜資料確認＞ ＜委嘱・市長挨拶＞
事務局	続きまして、次第の2の振興条例制定部会長及び部会員の委嘱に移らせていただきます。代表として、部会長の野原さまに辞令を交付させていただきます。 本来であれば、部会員のみなさまお一人ずつ交付させていただくところですが、時間の都合もあり、委嘱状を資料と共に机上へ配布させていただいておりますので、委嘱状の交付を持って委嘱とさせていただきますので、ご了承ください。 それでは、野原部会長と市長につきましては、委嘱状交付のため、前方までよろしくをお願いいたします。 ＜部会長へ委嘱状を交付＞

事務局	続きまして、市長の越田よりご挨拶を申し上げます。 ＜市長挨拶＞
市長	皆様こんにちは。改めまして市長の越田でございます。 本日は中小企業振興条例制定に向けた部会を設置させていただいたところ、野原部会長をはじめとして各部会員の皆様にはご協力をいただきまして本当にありがとうございます。 中小企業振興条例という名前は仮称ですので、最終的にどのようなお名前がいいのかも含めて、ご議論をいただき、ご提案をいただければというふうに思っております。 実は、私自身が中小企業振興条例に関わるのは、2度目になります。 1度目は、10年ほど前に兵庫県議会議員をしている時で、当時の議会の状況というのは、政務活動費の問題で大騒ぎをしていた状況でした。 任期の改選があって、議会として政策をつくっていくように変化していこうという状況の中で、各会派が持ち合って、会派の政策部門の実務の責任者として、中小企業振興条例を議員立法で初めて作るというところを調整しました。 その後、私が川西市長に就任して、商工会の皆様から中小企業振興条例を作って欲しいというご要望を毎年いただいていたのですが、私も少し踏ん切りがつかなかったというところがございます。1度作った身としてはですね、抽象的な理念条例になってしまうと、せっかく皆さんからたくさんご意見をいただいても、とにかく作ることがゴールになってしまっていて、理念は素晴らしいけどそれが政策とか実行に移っているんだろうかと、こういった部分でなかなか自分の中では落ちるものがなかったというところではございましたので、踏み込んでこなかったという状況であります。 川西市と商工会そして市内の商工業の皆様との連携が過去にないぐらいいい連携ができていると、私自身は自負をしております。 一番大きかった理由は何かといいますと、コロナだったと思います。 多くの自治体では、市長部局に対して、商工会や商工会議所の皆様が、あれやこれをやってほしいというご要望をいただくことが、多いというふうに思っています。 川西市の場合においては、一緒に考えて取り組む、場合によっては、今回お願いをしているのですが、中小企業の皆さんへの振興支援をする窓口を商工会の皆さんに受けていただき、商工会だけではなく市内の中小企業の皆様のお仕事の窓口にもなっていただく。市と商工会が、それぞれの内輪の話だけではなくて、川西市内全体で中小企業の底上げをどうしていくのかという連携が出来ている状況にあ

と思っています。 これは、例えば私と部会長や部会員の皆様との関係性が一時的にいいからということではなく、川西市と商工会をはじめとする多くの事業者の皆様としっかりとした関係性を継続的に続いていくような仕組みが、条例上の位置付けとして必要ではないかと考えております。以上が、条例を制定するにあたっての問題意識の1つ目でございます。 2つ目は、まちづくりの観点から中小企業の皆様の位置付けをしっかり決めて、行政として何をすべきなのか、事業者の皆様がそれぞれ何をすべきなのかということを明確に位置付けていきたいと思っております。 川西市はベッドタウンということでありますので、大多数の方が川西市内で働くというよりも、大阪などの都市部でお仕事をされています。川西市が住宅都市として育ってきたという観点から、ストロングポイントとして伸ばしていきたいというふうに思っています。 一方で、これからのまちをつくっていく時に、私たちが住宅都市としての一本足で生きていけるか、むしろ住宅都市ということを基軸に置きながら、身近なところで仕事や働く場所があるという新たな価値を付け加えていくことが、行政と市民の皆様と一緒に進めていくべきまちづくりの形だと思っております。 ただ、世の中を見てみると、昨今の物価高騰や後継者不足による人手不足の問題など中小企業の皆さんに共通する課題というのは、非常にたくさんあると思っています。 このような共通する課題と一緒に解決していくような仕組みをつくり、課題が出てきたときに、一緒に考えて取り組んでいく。条例の中で行政や中小企業の皆様の位置付けについて、しっかりと議論を通じて、方向性を見いだしていきたいというふうに思っております。 私が市長になって、まちづくりのいろんなことを考えている中で、川西市は規模が大手の事業者にもご活躍いただいておりますが、圧倒的に多いのは、やはり中小企業です。大きな企業を誘致するために、工場地をどこかに作るようなまちづくりというよりも、たとえば300人を雇う企業を1社つくるよりも、3人雇っていただく事業者が100社増えるほうが、まちにとっては非常にいいことだと私は思っております。企業の皆様にもご協力をいただきながら、働く場所や楽しむ場所を作っていくというのがまちづくりだと思っておりますので、そういった観点で、中小企業の皆様の位置づけをどう位置づけるのかどう活躍していただくか。 単に条例や条文だけをつくるなら、他市にもありますので、川西市と入れ替えてしまえば、多分明日にも出来てしまうと思います。そういったのではなく、私たちが議論を通じて、新しい価値を生み出した結果が、条例になればいいなというふうに思っています。 もしかしたら、最初から何て高いボールを投げるんだと皆様思われたかもしれ

	ませんが、行政だけでは出来ないことがいっぱいあるというのを把握した上で、出来ないことについて、皆様と一緒に答えをつくっていく自治体でありたいと思っています。時間的にもタイトなスケジュールになりますが、どうかこの１年間でひともお力をお貸しいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。 ＜自己紹介＞
事務局	ありがとうございました。 次に、各部会員より自己紹介をいただきたく存じます。 それでは、野原部会長から順番に自己紹介をお願いいたします。 ＜ 部会長・部会員の挨拶 ＞ ありがとうございました。続きまして、オブザーバーの方をお願いします。 ＜ オブザーバーの挨拶 ＞ ありがとうございました。つづきまして、事務局の紹介をさせていただきます。 ＜ 事務局の挨拶 ＞ ＜ 意見交換 ＞
事務局	部会員の皆様と意見交換を行いますが、公務の関係上、市長は退席する予定でございます。では、本条例の制定についてのお考えなどご意見はございますでしょうか。ある方は挙手をお願いします。
市長	なかなか意見を出しにくいと思うのですが、条例の作り方では、委嘱状を出したら、市長は公務のために退席しますと司会が言って退席し、あとは事務局と部会長で会議をして決めることが多いんです。 私としては、市長として条例を提案しますので、最後の段階でこんな条例になりましたと出てくるよりも、自信を持って条例を制定するために、最初の段階で第一打を打つ、グリーンはあそこだよねって言ったところを共有した上で、皆様に間をお任せして、最後に私へご提案していただくという作り方のほうが結局いいものになると思っています。一番最悪なのは、審議会から提案はしたけれど、取り込まれなくて別の条例ができたみたいことでして、最初に皆さんの疑問や私が感じることなどをしっかりお伝えさせていただく時間があったほうがいいだろうとい

	うことで、お時間をいただいておりますので、部会長からお伺いしたいと思います。
部会長	最近、川西の条例としては、こども若者参加条例ができています。今回の条例制定部会に関しては、市長もお話されたように、条例の目的や理念やビジョンなどについて、どのような役割とするかを考えていく必要があります。 条例として、どういうところに対してゴールを設けていくべきか。また、市と商工会とは、以前より連携が取れてきていると思いますが、どういうところにボールを持っていくかというところを本部会で決めていきたいですね。
市長	ありがとうございます。条例のつくりとして、理念がちゃんとしていることは必要です。川西市の中小企業がこうなったらいいというのは、私も身内が中小企業経営をしておりますので、中小企業の皆様が頑張ってよかったというふうになって、真面目に汗をかいて誠実に経営を続けている人が、ちゃんと報われるアイデアを出して欲しいなと思っています。 もう1つは、最近は少なくなってきたかもしれませんが、起業へのハードルが高いというところなんです。今の若い世代は大幅下がってきていると思いますが、お金を借りて事業に失敗したら、家族まで巻き込んでしまいますので、私よりも上ぐらいの世代にはハードルがあるということです。経済的にも心理的にも様々なハードルがある中で、事業をやることに対してみんなで応援することで、スモールステップでもいいから一緒にやっていけることができる社会であればいいなというふうに思ってます。 ゴールにどう繋いでいくかというところから、そこに向けた様々な施策に対して、この条例で担保をし、市長が変わっても方向性を変えないようにしたいと思っています。 条例を変えるのであれば、もう一度今回と同じように審議会の皆様と議論をする機会が必要なので、条例と施策がひもづけられてるということが、必要な部分かなと思っております。ただ、実務的な解説については、市民環境部長からお願いします。
部長	理念条例になってしまっただけでは、何ら意味がないということで、中小企業振興条例をつくろうという話を市長からいただいたときに、コピーしたようなものはしないという話をしております。 やはり、何をやるのかということが明確になっていて、その行為をきっちりと管理していくような内容が、条例の中に含まれていないと厳しいと思ってまして、条例でPDCAをしっかりとまわしていくような形としたいところであると、非常に抽象的ではありますが、そのように思っております。

市長	ありがとうございます。他市などで作られている条例の中で、例えば東大阪市や川崎市みたいな中小企業の町と川西市のようなニュータウンとでは、中小企業の位置付けは違ってくるかなと思っているところですが、アイデアやご意見などいただければと思いますが、いかがでしょうか。
部会員	やはり、理念で終わってはいけないというところで、先ほど市長が仰いましたように、行政も地域住民も事業者の方々も、議員さんも含めてそうですけども、それぞれが自発的にどう動いていけるのかというところに、作るだけではなくて巻き込んでいくことが非常に重要かと思います。 川西市は、近隣市に比べると、少し規模が小さいというところがあるかと思いますが、これはマイナス面ではなくて、規模が小さいからこそできることがあるというふうに考えております。 工業中心のまちではなくて、どちらかといえば暮らしが重視されるようなまちということですので、暮らしの中にある企業などで小さな夢がかなう暮らしというようなまちづくりができるのではないかなと思います。 中小企業という言葉は、どうしても東大阪などのイメージを思い込んでしまうのですが、そうではなく中小企業のあり方として、大阪や神戸が近くにある中だからこそできるというのが、川西市なら幸福度が高く安心して暮らすことができるまちとして見出せるなというふうに考えております。 ただ、行政としては、暮らしを重視するだけではなく、どう稼いでいくかという点も含めて考えることは重要だと思います。
市長	ありがとうございます。人々の暮らしには、職員も大きく関わる部分ですので、これからの将来を考えたときに、安心安全に暮らせるまちというのは効果も高いため、中小企業を中心とするような振興だけでない見方も検討していければと思います。 部会員の中には、実際にお仕事もされながら商店街を取りまとめていただいている方もいらっしゃると思いますが、いかがでしょうか。
部会員	私自身も50年間川西に在住しております。川西市では、サービス業は増えているのですが、小売業は減っていると思います。 お店をするには、生活する市民のためになっていけなければならないと思うところではありますが、お店がなくなったら、よく利用していたから困るというお話を聞くんですけど、利用してくれていたらお店はなくなるないんですね。 でも、地域からなくなったら困るようなお店というのはあるので、どうすれば継続できるかというところですね。

	例えば、病院の場合は、目的が終わるとそのまま帰ってしまうと思うのですが、うちの商店街でも、1年ぐらい前に八百屋さんができて、八百屋さんに来たついでに他のお店にも寄っていただけるんですね。同じ地域や商店街で、少し規模が小さくても、いろんな種類の小売業が増えていく、起業できるような体制があれば良くなると思います。 でも、能勢口はやっぱ家賃が高いとよく言われます。だから、起業するには少しハードルが高いので、多田など別の場所で起業される方が多いと思います。 最初の取っかかりで、店を出しやすいような何かがもっとあれば、能勢口の駅前も活性化されると思います。
市長	ありがとうございます。確かに様々なものがなくなるときに、残念というお声をよくいただきます。最近の川西市でいうと、能勢電鉄さんのケーブルカーがなくなったときにも、いつも使ってたのというお声をいただきました。いつも使っていただけでいたら、経営的な問題にならなかったということですよね。やはり、中小企業や商店を自分事として市民が守っていく姿勢みたいなものを条例の中でお話いただければ、うれしいかなと思います。 女性起業家の取りまとめ役という少し重いかもしれませんが、部会員の中には、結婚をして子育てをしながら働きに行くだけではなく、自分たちでビジネスをすとか、実はこういう能力があるんだという方が、たくさん埋もれているんじゃないかなという実感があるのですが、いかがでしょうか。
部会員	そうですね。川西って何もないまちだねってよく言われるんですけど、それは別の部会員がお話されてたように、小さくて何もないからこそ、逆に何かができるまちであると思います。昔は、市や商工会の連携が何となく感じられなかったのですが、自分で頑張るしかなかったのですが、最近は連携もとれてきているように感じています。市長もお話されたように、市民の皆さんにとって、市と連携しているかどうかは結構大きいことだと感じています。 市が、中小企業を大事だと思ってくれる感が市民に伝わることで、地域に愛着を持てるようになり、応援するようになると思います。
市長	ありがとうございます。私たちが実感しにくい部分ですよね。 市との関わりがあることで、信頼度や安心感に伝わるという実感は、正直あんまりなくてですね、公的な場では厳しいご意見をいただき、そのあとでこの部分は助かったみたいなご意見をいただくことが多いですね。 その助かったという部分をもっと発信していければ、市も頑張っているなと市民へ伝わるようになりそうですね。

市長	川西にある大きい企業で阪急という目線があると思いますが、昔の大手対地元中小企業みたいな時代から事業者全体で地域経済に貢献していくという流れに変わってきていると思いますが、川西市にはこんな特徴や場所があるなど、ご意見いかがでしょうか。
部会員	私どもが、最初に地域活動をしたのが川西市でしたので、とても思い出深いです。当社でも地域の活性化を取り組む際に、企業目線として地域の活性化のイメージがあって、そこへ向かっていきたいと考えておりましたが、実際の地域の活性化というのは、地域に住まれている方の目線で考えていくべきだと学ばせていただきました。 ですので、今の活動というのは、地域の生活者と一緒に活動することを重視しており、生活者目線を重視することで地域に溶け込んでいくようにしております。 川西市の地元の方とお話をする機会があるのですが、すごい情熱的な方が多いと感じており、あっちで何かしているけど、こっちでは何かしなくていいんですかと、お互いの意見交換などの風通しも良いと感じています。
市長	ありがとうございます。将来みんなが中小企業や市民の皆様が何かあった時に、中小企業振興条例にはこう書いてあるよと言えるような、特に事業者の皆様が、みんな覚えているみたいな条例にしていきたいと思います。 最近川西勤務に異動された方にもお話をお伺いできればと思うのですが、いかがでしょうか。
部会員	元々、新人の頃に川西支店に勤務しており、今回支店長として約20年ぶりに川西市に戻ってきたというところです。 川西市は路地が取り上げられたりと面白い部分もあるのですが、一番変わったのは、やはりキセウのあたりですかね。 マンションも多く建っており、昔と全然違う印象になっておりました。
市長	ありがとうございます。昔は、物流のような大きいところが入ってくると、雇用が3,000人くらい生まれるという話を探すようにしていたのですが、今は3,000人も取られたら、社員が足りなくなるという時代の流れに変わってきていますので、どういう風に変化していくのかということについても、また色々アドバイスをいただければと思います。 金融機関には、色々な地元の中小企業の方がご相談に来られると思うんですけど、こういったことに悩まれてる事業者様が多いですかね。

部会員	そうですね、やはり原料高、関税問題、人材不足というのは、共通の悩みだと思います。 また、税理士に相談しているような方はいらっしゃいますが、市に相談していませんというようなお話は、ほとんど聞かないのが現状のイメージです。 事業者の方は、補助金や助成などを非常に期待をしておられると思うのですが、制度などをご存じない中小企業の方が非常にたくさんいらっしゃって、支援などの情報などが伝わっていないように感じるので、情報を届けるようにしていく機会などが必要であると感じています。
市長	ありがとうございます。確かに、今思い起こせば、コロナのときに、全ての事業者の方へ一律10万円をお支払いする制度を設計しましたが、実は知らない方が多くて、予算1億円程度に対して執行率は少なかったということがありました。補助金の制度を作っても、届かないところに対してどう届けていくのか、どうやって地域の声を吸い上げていくのかが、大きな課題であるとお話を伺って思いました。
部会員	仕事が、どんどんバージョンアップをされているように感じています。コワーキングスペースで、フリーランスの方やテレワークの方とかを支える取組であったり、今はインキュベーションのところでありますけど、川西市で今のニーズなどを支援できる仕組みがあると、非常に豊かなまちになるのかなという感じています。 ベッドタウンなので、町の外に出て働く方がかなり多いところはあるのですが、リモートへの移行なども定着してきているところもありまして、住んでいる場所で働けることで、まちに関心を持って何かをしたいと考える人が増えたのではないかなという感覚があります。地域の取組やいろいろな方と関わる中で、感じるところがあるというふうに思ってます、取り込みながら新しいアクションへどうつなげていくのかというところですね。 また、副業を解禁している動きもあつたりもしますし、小規模な取組を並行してまちの中でやっていくとか、そういう新たな動きの種みたいなものは一定出てきているかなと思います。 その中で、何を発芽させていくか、私自身はまちの外にいますけど、実は川西に住んでますという方にちょくちょく出会うこともありますので、そういう人をまちの取組やプレーヤーの皆さんとつなぐみたいなことが、出来たらいいなと考えているような状況です。
市長	ありがとうございます。 おっしゃる通り、誰々さんは川西出身でというお話を聞くんですけど、中々ご縁までがわからないという方がたくさんいらっしゃって、川西に人材という大きな宝物があるということですね。川西市で、週5日のうち1日か2日でも活動などに

	関与をしていただけるようなことができるまちになることで、川西市を底上げしていろんな人材が集まる場所という形になるのかなと思います。これは、私の当初からの夢の1つでもありますので、またぜひ、アイデアを色々といいただければと思います。 では、オブザーバーのお2人も、せっかくですので、ご意見をお伺いしたいのですが、いかがでしょうか。
オブザーバー	やはり事業をしている方が、補助金や市の取組について、知らないといけないと思います。本来、情報を取りに行く側も頑張らなければいけないと思うんですけど、伝える方法も大事かなと思います。 個人事業主の方で、ある程度稼いできた場合に、次のもう1歩上がるときに、何をしたらいいかわからないくて、ずっと1人で頑張っているような方が一段上がるために何かをしてあげたいなと思っております。
市長	ありがとうございます。多分ですが、支援というのは、立ち上がりに悩んでいる段階の人を後押しする仕組みと立ち上がってからの仕組みの2段階があると思っています。行政は、立ち上がるまでの仕組みについては、頑張って様々なことをするんですけど、その後については、ビジネスなので行政は口を出さない方がやっぱり多いのかなと感じています。 行政の中小企業に対する支援としてどこまですべきか、一方で補助金をなんでも出してしまうと、事業者様の本来やるべき体力やアイデアを奪ってしまう可能性もあるので、まちとして応援していく部分について、議論の中で整理されて、具現化されると非常にありがたいかなと思います。
オブザーバー	新規事業者の創業を支援することだけでなく、既存の事業者にも目線を入れていくべきであると思っています。新規事業者にばかり支援が拡充していると思う人もいるかもしれないので、条例に新規と既存の2つの目線を入れていければいいかなと思います。
市長	ありがとうございました。条例の進め方として、中小企業や市民の皆様をどうやって巻き込むかということですね。市の事務局だけが作るのではなく、みんなで条例を作っていくことで、条例を大切にしていけるような取組をぜひ期待しておりますので、引き続きよろしくお願いいたします。
事務局	部会員の皆様につきましては、様々なご意見等をいただきありがとうございました。それでは、市長は公務があるため、退席させていただきます。 ＜ 市長退席 ＞

事務局	5、議題 それでは、議題の進行に移らせていただきます。議長につきましては、野原部会長に務めていただきたく存じます。
部会長	では、次第に沿って進行をさせていただきます。みなさま、よろしくお願いいたします。 会議中、部会員の皆さまからのご発言の際には、挙手いただき、こちらから指名させていただいた後にご発言をお願いします。オンラインで参加の方は、挙手いただき、マイクをオンにしてご発言をお願いいたします。 また、本会議は１２時までを予定にしておりますので、円滑な進行にご協力くださいようお願いいたします。 議題（１）川西市の現状について から 議題（４）中小企業振興条例の方針（必要性）については、一体的な内容となるため、一括して事務局から説明をお願いします。 ＜ 議題（１）から（４）について説明 ＞
部会長	ご説明ありがとうございました。 振興条例制定部会において部会員のメンバーには、それぞれの立場において、ご意見いただきたいと思います。事務局から説明がありましたとおり、資料４－２の「ご意見・ご提案シート」にて5月30日までにご意見等をご提出いただきますが、この場でご質問やご意見等はございませんか？ ＜ 質問なし ＞
部会長	それでは、次の議事に移りたいと思います。 議題（５）今後の本部会で行う予定内容及びスケジュールについて、資料５が提出されています。 では、事務局から資料に基づいて説明をお願いします。 ＜ 議題（５）について説明 ＞
部会長	ご説明ありがとうございました。 ただいまの説明につきまして、ご質問やご意見等はございませんか？ ＜ 質問なし ＞

部会長	では、本部会の議事録につきましては、事務局が作成したものを部会長が確認及び承認するものいたしますが、よろしいでしょうか。 ＜ 異議なし ＞ それでは、進行を事務局にお返しします。
事務局	6、閉会 部会長につきましては、会議の進行ありがとうございました。 また、部会員の皆様におかれましては、たくさんのご議論をいただき誠にありがとうございました。 最後に事務局からですが、今後の部会の日程について、連絡させていただきま す。第二回につきましては、みなさまからご回答いただきました日程を事務局で確 認させていただき、開催日のお知らせをさせていただきます。 また、第三回は7月22日、29日、30日、31日、第四回は9月19日、2 6日、30日で日程を調整させていただきたいと存じますので、追って、事務局か らご連絡させていただきます。 では、第1回川西市振興条例制定部会を閉会いたします。 本日は、長時間にわたりご議論いただきまして、誠にありがとうございました。 オンラインでご参加いただいている方はズームミーティングからのご退出をお 願いいたします。 ありがとうございました。